



青葉区民会議



2014年2月発行

# 青葉区民会議ニュース

40号

発行 青葉区民会議

事務局 〒225-0024 横浜市青葉区市ケ尾町31-4 青葉区役所区政推進課広報相談係内

Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 Email:mail@aobakuminkaigi.com

URL:http://www.aobakuminkaigi.com/ または「青葉区民会議」で検索

入手先：青葉区役所、地区センター、ケアプラザ、区民活動支援センター、図書館、区民利用施設など

青葉区民会議

検索



青葉区制20周年記念

青葉区民のつどい 2014

## 「プラチナ世代 これからの青葉区を考える」

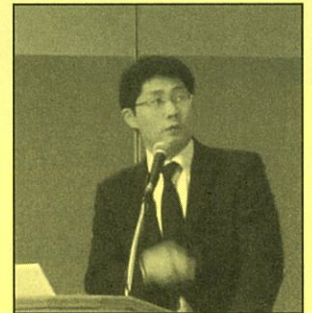
3月29日(土)午後1時半～4時(開場1時) 青葉区役所4階会議室  
夜間通用口をご利用ください

これからもずっと住みたいまち青葉 元気な現役高齢者を青葉区ではプラチナ世代と呼ぼう！  
そしてプラチナ世代が活躍できるまちを創るためにアイデアを出し合ってみませんか？

### 第1部 講演「活力ある超高齢社会を共創するために」

講師:後藤純さん (東京大学高齢社会総合研究機構 特任研究員)

超高齢化の真ただ中の千葉県柏市豊四季台。東京大学とURと地元自治体の産学連携で「長寿社会のまちづくり」へ取り組んでいます。医療や住まい方、まちのあり方など、ヒントや工夫の事例を話していただきます。団塊の世代(昭和22年～24年に生まれた人)が65歳になった今、考えなくてはならない青葉区の課題です。いつまでも若い青葉区ではありません。2020年オリンピックはすぐそこに！そして青葉区の高齢化もすぐそこに来ています！



### 第2部 グループによる意見交流

3つのテーマを事例やヒントを手掛かりに、「青葉区の新しい高齢社会」をデザインしよう！  
皆さんと青葉区らしいアイデア出しに挑戦してみます。

- テーマ1 プラチナ世代と健康 健康寿命をいかに伸ばすか
- テーマ2 プラチナ世代と地球環境・自然環境 青葉区的环境をいかに守り育てるか
- テーマ3 プラチナ世代と安全・安心なまちづくり 高齢化財政難時代のまちづくりはどうすべきか

将来、青葉区でも高齢化がさまざまな問題を引き起こしているかもしれません。あるいはプラチナ世代が新しい活躍の場を得て、だれもが生き生きと楽しめるまちになっているかもしれません。

どのような活躍のしかたがあるのか、想像力と創造力をいっぱい今、アイデアを考えてみましょう！！  
皆さんから頂いたアイデアは、区民会議として横浜市へ提案してまいります。

参加は自由です。ぜひ会場へ

4 ページに続く



イラスト提供：東京大学高齢社会総合研究機構

回覧

承認  
区連会第24号

発行：青葉区民会議

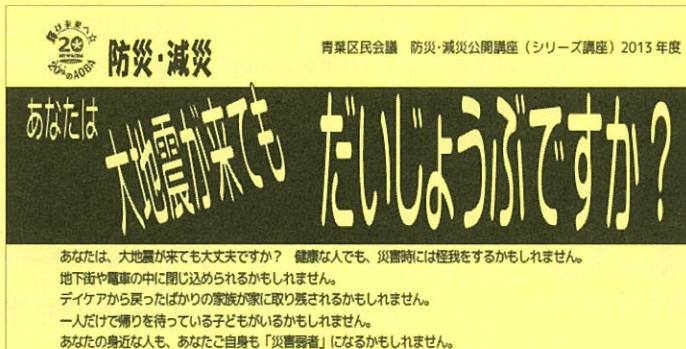
## 3つの部会 活動紹介

### 安全・安心まちづくり部会

安全で安心なまちづくりを目指して活動しています。地域の安全はまず一人ひとりが「防災・減災」に関心をもち対策を考えることから始まります。公開講座はさまざまな情報や行政の防災対策を知る・考える場です。地域の防災関係団体や拠点情報を共有できるインターネット防災情報サイトを構築中。さらに他区のまちづくりグループとの連携も進めています。

＜第6回防災・減災公開講座＞を2月16日に開催しました。

- ・基調講演 「青葉区の災害時応急医療」  
青葉区医師会会長 山本俊夫さん
- ・パネルディスカッション 「つなごう地域力」  
コーディネーター 佐藤榮一さん  
パネリスト 桂小防災拠点 山崎誠さん  
ピピ保育園 鹿野奈津子さん  
あざみ野第二小拠点 西本和彦さん
- ・「減災ネットワークあおば」紹介 小池由美さん



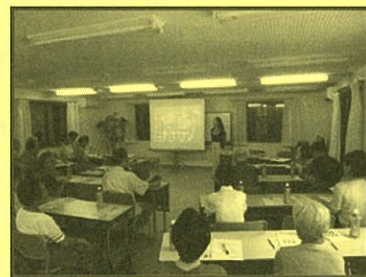
あなたは 大地震が来ても だいじょうぶですか?

あなたは、大地震が来ても大丈夫ですか？ 健康な人でも、災害時には怪我をすることもありません。地下街や電車の中に閉じ込められるかもしれません。デイクアから戻ったばかりの家族が家に取り残されるかもしれません。一人だけで帰りを待っている子どもがいるかもしれません。あなたの身近な人も、あなたご自身も「災害被害者」になるかもしれません。



らくしよく  
＜楽食試食会＞を進めています。災害時非常食を日常から楽しく味わうためのメニューを考えて試食会を開いています。干し野菜のみそ炒め・干したまねぎステーキ・じゃがりこポテトサラダ等に取り組み、じゃがりこサラダは区民まつりでも提供し好評でした。これからも続けます。

＜DIG普及の支援＞防災拠点で行われる防災訓練で災害時図上訓練（DIG）が普及し、地域課題が組み込まれるよう支援していきます。昨年は地域防災拠点2か所の訓練に参加しました。DIGが青葉区内全域で普及するよう、そしてDIG自体も進化するよういっしょに活動していきます。



出前講座 野あざみの会にて

＜防災・減災出前講座＞を実施しています。老人会で「災害時の緊急対応」について講演しました。

### ＜減災ネットワークあおば＞がスタートしました！

第6回公開講座会場で減災ネットワークあおばのポータルサイトを公開しました！地域防災拠点運営委員、自治会役員、施設や団体の防災担当、防災活動組織、民生委員、アマチュア無線、防災ライセンス取得者、家庭防災員の方々に情報提供を行うパートナーになっていただきます。地域で活動している人たちのための減災ネットです。地域の減災力を上げるためには、情報共有が必要です。

さまざまな防災減災情報を伝えます。ぜひご覧ください。

<http://aoba-portal.net/gensai>

防災コラム（寄稿文）④ 村八分って知っていますか？ 一人ではできない火事とお葬式 防災アドバイザー 佐藤 榮一

「『村八分（むらばちぶ）』って知っていますか？」集団いじめの歴史的典型的な形態です。講演会等でこう尋ねると、今では7割近くの人たちが知らないと言います。しかし、子どもたちは今でも知っているし使ってもいます。恫喝的に「はちぶにするぞ」と使っています。では、村八分とは？ それは、村集団のおきてに従わない者を仲間から外す私的制裁です。村八分にされると生きてゆけなくなる封建社会では、その恐怖から仲間はずれにされぬよう『見かけ団結』が維持されました。昭和20年ころまでは地域制裁として黙認されていました。

そのような封建社会でも、『つまはじき』にはしてはならないと定められていたのが残りの二分です。その外してはならない残りの二分は、『火事と葬式』です。一人ではできない消火活動と埋葬の二点は、村人総がかりで行ったのです。地域社会は、公助・共助・自助で成り立っているのですが、特に災害など究極の状況からの被害を避けようとしたときにその区割りは歴然としてきます。

大規模災害の過酷被害が想定されている今、災害対応は一人では何もできない。災害時助け合いの仕組みができていなかったり、共助の輪から抜け出て無関心でいたりするのは村八分状態であり、封建社会より劣るのではないのでしょうか。

最近、首都圏直下地震の被害想定はますます過酷な状況に改訂されました。国民に求めることとして実質的な自助活動と有効な共助力を強めなければならないとしています。しかし、インフラ被害が増大することで人的被害も増大して共助に参加できるマンパワーも減衰することが懸念されています。大災害時、自分を襲う火事とお葬式を考えながら、自分の命は自分で守る、守った命で自分達の町を守る、地域共生の『防災安全、優しい街づくり』がさらに一歩前進することを心がけたいと思います。

## 3つの部会 活動紹介

### 健康・福祉・教育部会

当部会は、「楽しく学ぶ」「自由に発言できる雰囲気」を重視し、定例部会終了後に、場所を移して気楽な形での意見交換会を実施しています。もちろん、こちらは任意参加ですが、メンバー間で好評につき、毎月の恒例行事として定着しております。

人口統計データからも明らかなように、我が国においては、総人口が減少し、高齢者人口が増加していきます。そのことに無関心であったり、見て見ぬふりをしていたとしても、それは必ず現実として目の前に襲いかかってきます。

しかし、上記の傾向は日本全国変わりありませんが、細かく見ていくと、それぞれの地域によってピークの時期やスピードは異なります。また、問題点についても、地域のインフラや人的資源によって違いがあります。つまり、地域ごとでの問題解決が必要となります。そして、その問題について、一番的確に認識し、効率的に解決できるのは、その地域の住民です。「住民自治」の必要性は、まさにそこにあります。

というような大きな理想を掲げながらも、当部会では、各メンバーが日常の生活で感じたことを、堅苦しい雰囲気なしに自由に話し合っています。その上で、問題解決のために、まず青葉区について知ることを重視しています。また、大きな意味で政治を身近に感じられるよう、国会見学なども実施しました。

今後は、多くの区民の方々と触れ合い、ご意見を頂けるよう、公開講座の開催などを考えています。まず、興味を持って頂き、それをもっと知りたくって自然に勉強しているという形が理想ではないでしょうか。



ある日の部会（ピオラ市ケ尾）



### 自然・環境部会

青葉区に残されている緑と水を守るため、今期も、横浜市独特なみどり税を原資にする「横浜みどりアップ計画」の勉強を継続します。市・区を含め外部のチカラを積極的に活用し、勉強の成果を具体的な提案にまとめます。

#### <横浜市から緑・農地の保全計画の説明を受けました>

横浜市は「横浜みどりアップ計画」に沿って、緑や農地の保全、街路樹のメンテナンス等々に毎年多額の予算を投入しているのをご存じでしょうか？当部会では、青葉区内での使い方や実績をフォローし、市に対して要望を提案してきました。

平成26年度以降の新しい5か年計画案が公表された機会をとらえ、1月の部会で、横浜市環境創造局から直接この新しい計画の概要の説明を受けました。70ページ以上の大部な計画案の中で、過去の実績を踏まえて従来と変わった考え方と重点政策の説明を受け、その後積極的な質疑応答の機会を持ちました。計画全般の理解が進みましたので、これからはテーマを絞って市と情報交換し、市民目線で具体的に提案していく予定です。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

#### <恩田の森観察会をおこないました>

恩田の森は青葉区北西部にある約70ヘクタールの青葉区最大の森です。すでにあかね台など大規模開発がされた地域もありますが、部会として残る緑を見守る活動を継続してきました。

12月「恩田の谷戸ファンクラブ」の方の案内で観察会をおこないました。あかね台鍛冶谷公園、市民農園、市境の尾根道、風の広場、熊ヶ谷小川アメニティーといつものコースをたどりました。いつもながら農と自然を守る方々の手が入った里山には安心しました。一部は墓地など開発の手が入ったとはいえ、一方「横浜みどりアップ計画」による制度的保護も進んでいました。



横浜市環境創造局から説明を受ける



# 区民のつどい「プラチナ世代 これからの青葉区を考える」ヒント

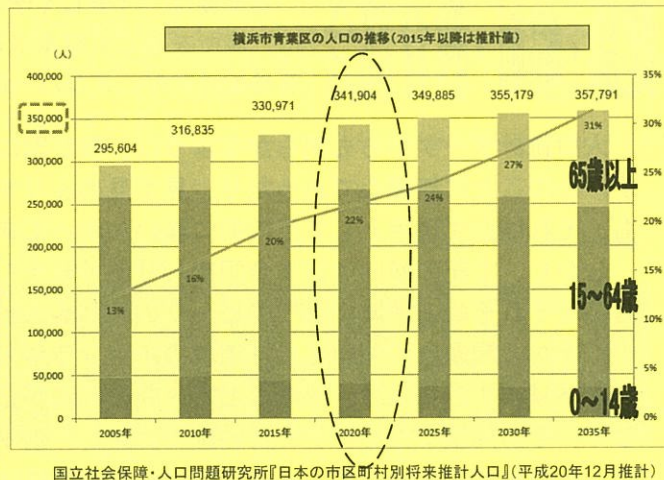
**2020年オリンピックの年ー青葉区の高齢化率 22% !**  
(65歳以上の人の割合) その時青葉区は？

「安心して歩きたくなるまち、出かけたくなるまち」はどんなまちですか？

「健康で自分らしく生きるまち」はどうしたら実現するのでしょうか？

青葉区には市内で一番の[なるほど]がたくさんあります。

- \* 年少人口ー15歳未満(45,287人) \* 医療機関(277か所)
- \* 乗用車の保有数 (90,083台) \* 公園 (230か所)
- \* 有料老人ホーム (34施設) \* 街路樹 (15,519本)
- \* 個人住民税額 (338,354円) \* 道路総延長 (736Km)
- \* 帰国児童数 (101人) 出典：なるほどあおば2013



「なるほど」は青葉区の財産です。

この財産を活かした元気なプラチナ世代のまちづくりを考えます。自然エネルギーへの転換で住まい方が今、変わり始めています。横浜市財政も逼迫し、限られた財源は使い方の順位が厳しくなります。2020年の青葉区 あなたのライフスタイルも変わっているかもしれません。あなたはどんなまちを創り、どのように住み続けますか？



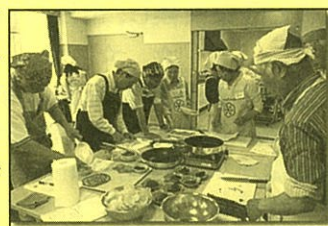
横浜市区民会議交流会 10区から集まりました。

青葉区は今年区制20周年を祝います。青葉区民会議も青葉区と共に誕生し、区民の意見やニーズを聞き、「ずっと住むまち・住み続けたいまち青葉」を目指してさまざまな活動をおこなってきました。横浜市が特別自治市への取り組みを進める中、青葉区だけでなく他の17区との連携や情報共有が求められます。横浜市区民会議交流会や北部4区交流会などを通じて意見交流を図っています。青葉区まちづくり指針の改定も始まっています。自分たちのまちは自分たちが作る。市民参加のまちづくりの第一歩として区民会議へ参加しませんか？

## 子育てママ エレンズさんが行く！青葉区オススメ子育てスポット！！

今回はあかね台にある『横浜市恩田地域ケアプラザ』をご紹介します。

ここはあかね台中学校に隣接する青葉区内でも珍しい環境にあり、中学校のテスト前には勉強するスペースを貸し出したり、ケアプラザ主催のイベントを行う時には中学校の体育館を借りたり、中学生がボランティアとしてお手伝いに来てくれたりと、中学校と連携していろいろな事を行っています。また親子連れが利用できるプレイルームの開放、小学生向けの実験教室、男性向けの料理教室、65歳以上対象の健康に関する教室など、様々なイベントも実施しています。気持ちよく利用することが出来るとも綺麗なケアプラザです。皆様のご利用をお待ちしています！



青葉区民会議に参加を希望される方は、氏名・年齢・住所・電話番号・メールアドレスを書いて青葉区役所 1階広報相談係へ Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 メール: ao-koho@city.yokohama.jp